

## 東日本大震災からの復興事例から学ぶ

東日本大震災から10年が過ぎ、福島県を除く多くの被災地では復興事業も完了しつつある。10年の復興まちづくりが伝える教訓とは何か？

予想される災害に備えて事前復興に取り組む地域も見られるが、高い確率で予想されている南海トラフ地震では東日本大震災以上の津波被害が発生すると推測されている。

今回は高知県において、東日本大震災の復興事例の成果と課題を報告するとともに、事前復興および事後の復興プロセスや計画検討の方策について意見交換を行う。

日 時：2021年11月15日（月） 14時30分～17時

会 場：高知縣市町村総合事務組合自治会館第一会議室およびオンライン

※席に限りがあります。高知県内自治体の方に案内しておりますので、参加を希望される建築学会員の方はオンライン参加にご協力ください。

参加費：無料

定 員：オンライン（100名）

お申し込み URL：<https://forms.gle/CyguvVucohZvZ7P59>

### プログラム

14:30 開 会

14:35～15:35 基調講演

「東日本大震災からの復興の全体像ーポスト復興を平時の都市計画につなげる事前復興ー」

北原啓司（弘前大学）

東日本大震災から10年が経過した今、そこで我々が直面した様々な教訓を活かすべく、全国で「事前復興」の考え方が前面に押し出されてきている。大地震、そしてそれに続いて生起する大津波。幸いにもその被害を受けることがなければ、杞憂に終わるというのではなく、この時代であるからこそ、安全で住み心地の良い（あずましい）都市計画を進めていかなければならないのではないかと。単純に防災計画を進めるというのではなく、震災の経験を平時の都市計画につなげる意義として、事前復興の必要性を改めて提起したい。

15:50～17:00 パネルディスカッション

「高知県は南海トラフ地震からいかに復興するのか～東日本大震災からの復興から学ぶ～」

コーディネーター 牧 紀男（京都大学）

東日本大震災の教訓を南海トラフ地震の復興に活用していくのか、東日本大震災の復興に関わって研究者からの発表をふまえ、その知見をどのように理解し、活用していけば良いのか。今後、事前復興計画を行う立場から議論を行う。

話題提供1：都市部での復興事例 姥浦道生（東北大学） 20分

東日本大震災からの復興まちづくりの実態について、主に人口減少への対応と地域の魅力向上の観点から解説するとともに、そこから得られる教訓としての事前準備の重要性について述べる。

話題提供2：漁業集落での復興事例 三宅 諭（岩手大学） 20分

漁師は浜の近くに住むというのが、今回は多くの漁業集落が高台移転を選んだ。漁業集落で居住地と海の位置関係はどのように決まったのか、浜の利用、漁業への影響の有無について岩手県を事例に紹介する。

市町村職員を交えたディスカッション 30分

17:00 閉 会